

情報通信審議会情報通信技術分科会
研究開発・標準化戦略委員会
標準化戦略ワーキンググループ（第1回）議事概要

1 日 時 平成19年8月28日（火） 14時00分～16時15分

2 場 所 総務省低層棟1階 総務省第1会議室

3 出席者（敬称略）

構成員

相澤清晴（主任）、浅谷耕一、江崎正、上野貴弘、岡進、鎌形映二（勝部泰弘 代理）、加藤隆、加藤泰久、田中茂（川西素春 代理）、喜安拓、北地西峰、古賀正章、小林直哉、小森秀夫、関口潔（佐藤孝平 代理）、玉井克哉、中西廉、原崎秀信、森脇鉄郎（日比慶一 代理）、平松幸男、藤咲友宏、岡村治男（星克明 代理）、本城和彦、宮島義昭、飯室一敬（村上和弘 代理）、山下孚

事務局

田中宏（通信規格課長）、荻原直彦（同課標準化推進官）、増子喬紀（同課標準推進係長）、山崎浩史（同課標準推進係）

4 議事

（1）諮問事項について

事務局より、資料 標-1-1に基づき、情報通信審議会への諮問事項「我が国の国際競争力を強化するための研究開発・標準化戦略」（平成19年8月2日諮問第13号）についての説明があった。

（2）標準化戦略ワーキンググループの運営について

事務局より、資料 標-1-2及び資料 標-1-3に基づき、本ワーキンググループの構成員及び運営について説明があり、案のとおり承認された。

（3）今後の検討課題について

事務局より、資料 標-1-4、資料 標-1-5及び資料 標-1-6に基づき、今後の検討課題について説明が行われた。
主な意見については以下のとおり。

【標準化活動について】

- ・ 資料 標-1-4について、ITUを中心とした日本の標準化推進体制となっているが、近年ITUの求心力は低下しており、各企業の標準化担当者はITUだけでなく、それ以外の標準化機関や団体等で積極的に活動している。企業から、どのような分野の標準化に重点的に取り組んでいるのか意見を伺うのもいいと思う。また、それらを踏まえてこの資料の標準化活動の全体像のスライドを修正して頂ければと思う。
- ・ 現在の標準化の状況として、IETFや3GPPs等の標準が重視されている。本WGにおいては、ITUだけでなくその他の標準化機関/団体も対象として議論すれば、企業のニーズに沿うような提案に出来るのではないかと。
→ 本WGの議論においては、特段ITUに限定するものではないので、標準化に関して幅広くご検討頂ければと思う。また、標準化戦略のマッピングを行うことによって、強化すべき分野がわかればと考えている。
- ・ ITUの求心力低下に関し、例えば、デファクト標準グループであるIETFと比較すると、IETFは大学の学生や先生が多数参加しているが、ITUは会費が高いこ

ともあり学生は参加していない。また、ドキュメントについても I E T F は無料で公開しているのに対して、I T U では勧告文書は試行的に公開しているものの、会議で検討されているドキュメントまでは見ることができない。特に最近では、I T U から I E T F や 3 G P P 等の他のデファクト標準団体に対し、標準策定に必要な検討の要請をすることもあり、I T U に先立って、中心となる議論が I T U 以外の場で検討されることがある。

- ・ I T U は日本がきちりと仕事ができる機関であるが、そこですら現在の I T U の議長やラポータ等の役職者数は少ない。一方で、アメリカなどは役職者をしっかり出しており、今後の取組に危機感を抱いている。近年 I T U よりもデファクト標準を重要視する傾向にあるが、I T U すら維持できないとコンソーシアム等でも勝ち目はないのではないか。
- ・ 中韓はなぜ多くの若手が標準化活動に参加しているのか。
 - 韓国では、TOEIC が 620 点程度ないと企業に採用されにくいと聞く。一方、日本では採用時の平均が 500 点くらいである。このような状況を考えると、韓国においては、少なくとも語学力の点では、会議に若手が参加する障害はないのではないかと思う。

【標準化戦略について】

- ・ 標準化戦略に関しては、競争する部分と協調する部分があると思う。その観点からも、国家の標準化戦略とはどのようなものなのか考える必要がある。
 - 一企業ではやりきれない部分は、コンソーシアム等を組んで取組む必要があり、そのような部分については協力できるような仕組みが必要である。国家と企業の戦略のあり方についても本WGでご検討頂ければと思う。
- ・ 標準化の企業戦略と国家戦略が連携し、いかに有機的に機能させるかということが、これからのポイントとなる。最終的に日本企業が競争力を得るためにどのような体系が必要となるのかを考える必要がある。
- ・ 本WGの検討はボトムアップのようだが、国家戦略としては、ボトムアップだけではなく、トップダウン的な取組みも必要である。
- ・ ボトムアップ的な活動をするのであれば、日本の I C T 企業は数が多いので、企業間で連携した取組みが必要である。特に各企業において、得意分野はその企業が他の企業を引っ張っていくような仕組みが必要である。

【各検討課題について】

- ・ 特許出願件数でいうと日本は他の国々と引けをとらないが、重要となる基本特許登録件数は少ないのが現状である。先手を打つような特許の取得が大切である。
- ・ 標準化・知財センターの機能は、どのようなものが考えられるか。
 - 機能については、本WGを通して各社の要望等をまとめていけば、それがセンターの持つべき機能となるのではないかと考えている。
- ・ 実証実験については、普及や標準化を考慮するとインドや中国等の中進国と共同で実施するのが望ましいと考えているが、そのような取組みができるスキームとはならないのか。
 - それら取組みについても、本WGの検討結果を基に対応を考えていくことになると思う。

【検討課題の進め方について】

- ・ 10個の検討項目が用意されているが、この各項目自体を見直すことは可能か。
 - 現在上がっている各項目については、まずご議論頂きたいと考えている。その上で、もし必要であれば、各項目の見直し等の調整を行って頂ければと思う。
- ・ 標準化については本WGにて検討するが、研究開発については研究開発戦略WGで検

討を行うと聞く。標準化と研究開発が一体的な取組みをするためにも、研究開発戦略WGと情報共有したほうがいいと思う。

- ・ ICT国際標準化戦略マップ、ICTパテントマップの整備に関しても両者が情報交換しながら、研究開発戦略WGと連動して検討する必要があると思う。

(4) 審議スケジュールについて

事務局より、資料 標-1-7に基づき、今後のスケジュールについて説明があった。

(5) その他

次回ワーキンググループの日程等の詳細については、主任と相談の上別途連絡することとなった。

【配布資料】

資料 標-1-1	第1回研究開発・標準化戦略委員会資料（抜粋）
資料 標-1-2	標準化戦略ワーキンググループ構成員名簿
資料 標-1-3	会議等の公開について（案）
資料 標-1-4	ICT分野における標準化・知的財産をとりまく現状について
資料 標-1-5	ICT標準化・知的財産強化戦略に関する検討課題（案）
資料 標-1-6	ICT標準化・知的財産強化プログラムの全体イメージ（素案）
資料 標-1-7	標準化戦略ワーキンググループ検討スケジュール（案）

以上